

---

# 医療情報標準化の動向

木村通男

浜松医科大学医療情報部教授

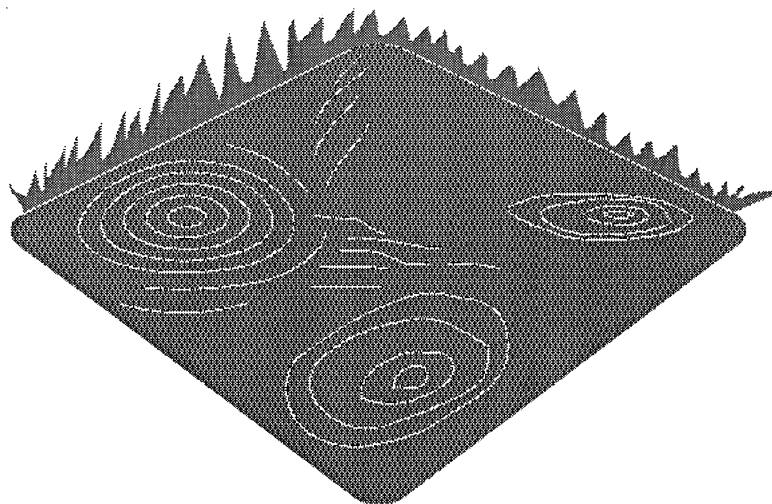
日本医療情報学会理事、標準化委員長

日本HL7協会技術委員長、日本代表

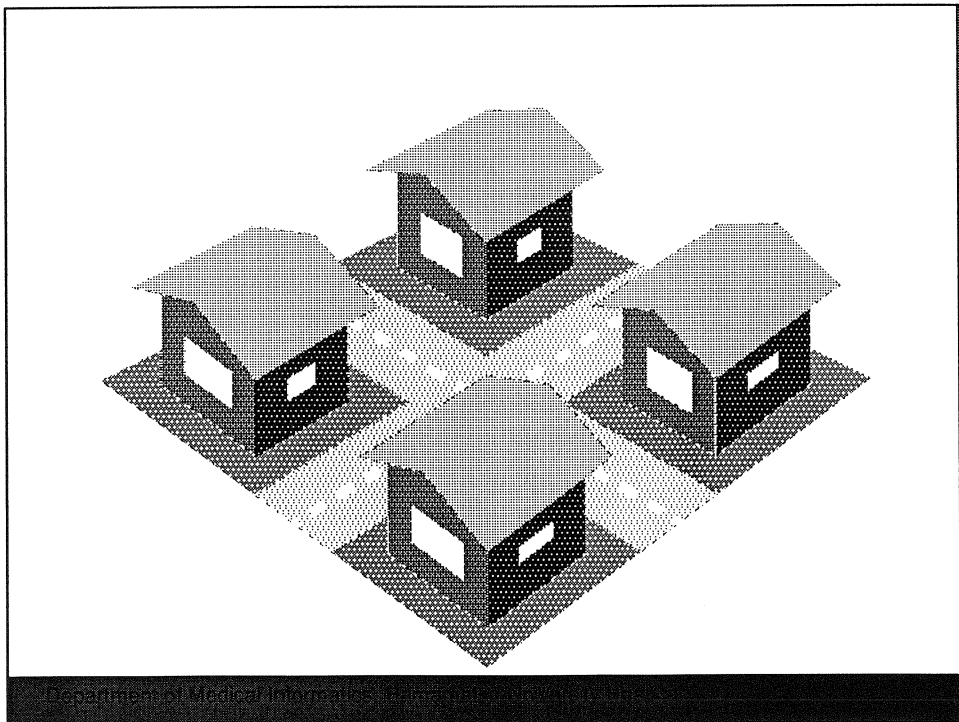
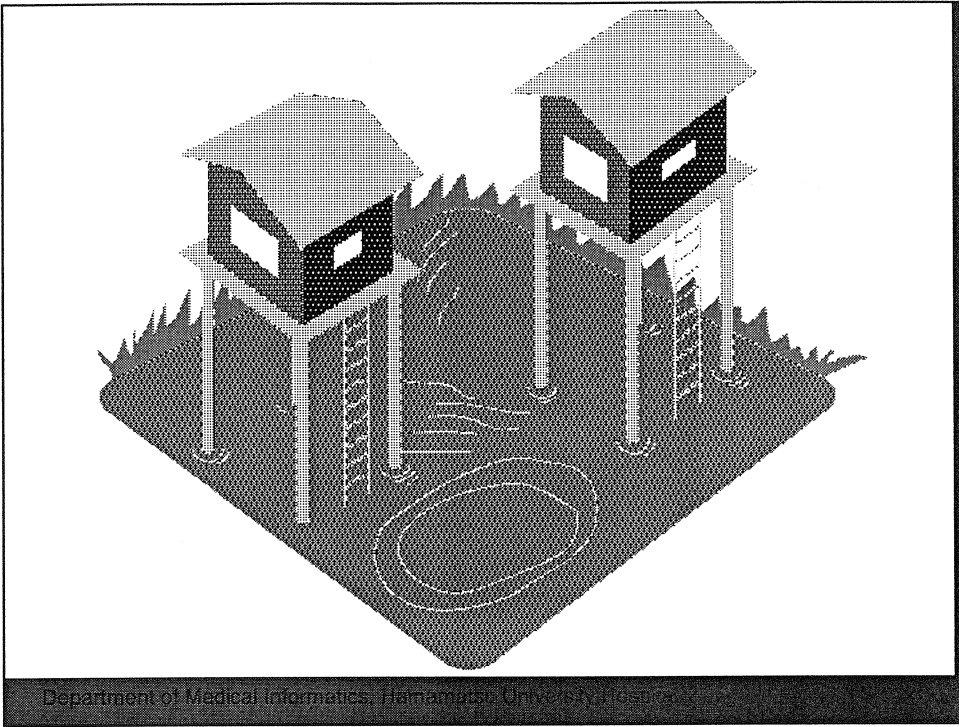
JIRA DICOM委員会顧問

ISO TC215 (医療情報) WG2 (Message) 日本代表

Department of Medical Informatics, Hamamatsu University Hospital



Department of Medical Informatics, Hamamatsu University Hospital



## 標準化のメリット

- 施設間情報連携（患者情報、事務情報）
- 医療データの長期保全
  - ⌘ メーカーが代わったなどは理由にならない
- 部分ごとに安くてよいシステムを
  - ⌘ 会計、検査、PACS、内視鏡、調剤、
  - ⌘ ゲノムサーチエンジンなど大規模なものへの即時対応
- デメリット：早すぎるもの、浅すぎるもの、深すぎるもの、間違った用途に使われたもの

Department of Medical Informatics, Hamamatsu University Hospital

## アメリカの医療情報標準化

- 米国連邦法HIPAA(1996、実施2000)
  - ⌘ Healthcare Information Portability and Accountability Act「医療情報（臨床、医事とも）の施設間伝送では、公開された規格を用いること」
  - ⌘ CDC(Center for Disease Control)
  - ⌘ HCFA(保険基金連合会)
- HIPAA法適合の標準制定団体
  - ⌘ HL7（患者基本、オーダ、検査結果、会計など）
  - ⌘ DICOM（画像）
  - ⌘ ASTM,,

Department of Medical Informatics, Hamamatsu University Hospital

## 日本の医療情報標準化

- DICOM (画像)
- HL7 (患者基本、処方、検査依頼、結果、)
- 各種項目マスターの整備
  - ⌘ 医薬品名 (HOTコード)
  - ⌘ 臨床検査名 (JLACコード)
  - ⌘ 医療材料名 (EAN128コード)
  - ⌘ 診療情報交換データ項目セット (J-MIX)
  - ⌘ 病名、手術・処置名

Department of Medical Informatics, Hamamatsu University, Hamamatsu

## ISO TC 215 (医療情報)

- 1998年発足、以後5回会合
- 代表：辻内順平 (東工大名誉教授)
- 事務局：MEDIS-DC
  - ⌘ 工業会、学会のバックアップ
- 近々出そうなもの
  - ⌘ ベッドサイド検査機器のデータ出力
  - ⌘ 公開鍵方式暗号の運用
  - ⌘ 施設間情報交換データ構成手法

Department of Medical Informatics, Hamamatsu University

## これからの課題、問題点

### ■ 規格の公共性

↗ 例：SNOMEDコード（病理病態記述）

- 大変よいコードだが、支払い費用が多く、普及の妨げとなっている

### ■ 規格の国際性

↗ DICOM, HL7, ISO

### ■ 規格を正しく選ぶ